

幼児造形における「紙工作モビール」指導法の研究

A study on the teaching method of "paper work mobile" in early childhood modeling

鈴木 安由美

愛知みずほ大学短期大学部（非常勤）

Ayumi Suzuki

Aichi Mizuho Junior. Colledge (Part-Time)

キーワード：モビール、幼児造形、造形教材

Key Word：mobile, Toddler Modeling, Modeling Materials

1. はじめに

モビールとは、動きを取り入れた芸術（キネティック・アート）の一種で、紙などの軽い素材を糸や棒で吊るし、特定の位置でバランスをとって安定させた作品である。幼児に身近なキネティック・アートといえば、玩具のやじろべえや遊具のシーソーやブランコなど、安定した往復運動をするものがある。一方モビールは各素材が一か所で吊られていることが多く、風が吹いたり人が手で触れたりするとゆっくりと揺れたり回転したり、安定しているが不規則な動きで見る者を飽きさせず、穏やかな気持ちにさせる。デンマークでは古くから室内装飾として作られ、現在では日本でもインテリアや知育玩具として普及している。ベビーベッドの上に吊るしたモビールのゆらゆらと不規則に揺れる動きが、乳幼児に視覚的な刺激を与えることができる。新生児の視覚は、輪郭はぼんやりとし、色もはっきりと区別できないと言われている。生後2～3ヶ月になると視点を固定できるようになり、動くものを目で追うようになる。寝ている時間が多く、また自分で寝返りを打てない時期の乳児にとって、視界に動くモビールが映ることは、視覚の発達が促されると期待することができる。

市販されている乳幼児用のモビールは、紙製、木製、プラスチック製、布製などが多く、色は視覚が未発達な新生児のためのモノクロのものから、色が識別できるようになる乳児のための色鮮やかなものまで、実にバリエーション豊かである。小さなモチーフを吊るすという簡単な仕組みであることから、手作りすることも難しくはない。手を動かし造形活動ができるようになった幼児が制作した作品をモビールにす

ることで、幼児自身が満足感や喜びを見出したり、部屋のモビールを季節ごとに変えることで季節や年中行事を学んだりすることができるのではないかと考える。年中行事は子どもにとって生活の楽しみの一つであり、季節感や日本・海外の文化について学ぶ大切な機会である。モビールに季節や年中行事に関するモチーフを取り入れることで、見て楽しいというだけではなく、コミュニケーションツールや教材としての価値も付け加えたい。

本研究では、造形教材としてのモビールづくりについて改めて捉え直し、将来幼児を指導することになる保育専修の大学生に行った造形活動の実践をもとに検討していく。

2. 研究方法

(1) 対象

対象はN大学子ども発達学科保育専修の2年生30名である。受講生の構成は男性4名女性26名で、将来は保育士を希望する意欲の高い学生たちである。造形が好きで得意な学生もいるが、その反面苦手と感じている学生も数名おり、授業の初回でははさみやカッターナイフなどの道具の基礎的な使い方から復習し練習してきた。切る、折る、ちぎる、貼るなどいくつかの課題で紙の加工に慣れてきたところで、半期の授業の最終課題としてモビール制作に取り組んだ。

(2) 制作手順

2-1. キーワードの抽出

自分の生まれ月の草花、虫、動物、食べ物、遊び、行事などの各ジャンルから関連するキーワードを思いっただけ抽

出する。30名の学生の誕生日の分布と発想の内容は、以下の表1～2のようになった。

表1 誕生日の分布

誕生日	1月	2月	3月	4月	5月	6月
人数	2	3	1	2	3	4

7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1	3	6	3	1	1	30

表2 制作物の内容

誕生日	項目	人数
1	1月 獅子舞	1
2	日の出	1
3	富士山	1
4	鶴	1
5	梅	1
6	扇子	1
7	だるま	1
8	餅つき	1
9	みかん	1
10	こま	1
11	2月 手袋	2
12	雪だるま	3
13	おでん	1
14	節分の鬼	2
15	バレンタインチョコ	1
16	梅	2
17	雪の結晶	2
18	椿	1
19	3月 ひな祭り・ひな人形	1
20	ひな祭り・ぼんぼり	1
21	タンポポ	1
22	蝶	1
23	羊	1
24	4月 三色団子	1
25	タンポポ	1
26	蝶	1
27	桜	2
28	入園式	1
29	ランドセル	1
30	チューリップ	1
31	5月 柏餅	1
32	こどもの日・こいのぼり	3
33	母の日・カーネーション	2
34	チューリップ	1
35	スズラン	1
36	こどもの日・兜	2
37	ミツツチ	1
38	クローバー	1
39	6月 傘	4
40	レインブーツ	1
41	さやえんどう	1
42	カエル	2
43	カタツムリ	3
44	紫陽花	3
45	てるてる坊主	2
46	7月 星	1
47	スイカ	1
48	金魚	1
49	花火	1
50	延命草	1
51	スイカ	1
52	8月 向日葵	3
53	カブトムシ	2
54	カニ	1
55	海	1
56	トマト	1
57	風鈴	1
58	スイカ	1
59	アサガオ	1
60	蚊取り線香	1
61	金魚	1
62	花火	1
63	9月 コスモス	1

64		ブドウ	3
65		栗	1
66		紅葉	2
67		イチョウ	1
68		月見	6
69		ドングリ	3
70		きのこ	4
71		キンモクセイ	1
72		サツマイモ	2
73		まつぼっくり	1
74		敬老の日	2
75		彼岸花	2
76		運動会	1
77		トンボ	1
78	10月	トンボ	1
79		ミノムシ	1
80		バラ	1
81		ハロウィン・かぼちゃ	3
82		ハロウィン・お丑け	2
83		ハロウィン・お菓子	2
84		紅葉	1
85		きのこ	2
86		キツネ	1
87	11月	菊	1
88		読書	1
89		温泉	1
90		きのこ	1
91	12月	雪だるま	1
92		こたつ	1
93		柚子	1
94		クリスマス・ツリー	1
95		クリスマス・リース	1

思い浮かんだキーワードの中から5～6つを選択し、紙を中心として吊り下げるモチーフを制作する。折り紙または切り紙で作る平面作品と、トイレトペーパーの芯や紙皿、紙コップなど身近なリサイクル素材で作る立体作品の両方を混ぜて制作する。紙製素材だけでの表現が難しい場合には、毛糸やモール、ビーズなどの素材の使用を可とした。

2-2. 平面作品の制作

紙はコピー用紙、色紙(いろがみ)、色画用紙、包装紙、障子紙などを準備した。コピー用紙は、モダンテクニックを用いて模様づくりをする。パチックやスタンピング、ドリッピングをメインに行ったが、名称のある技法だけにとらわれず、バットの中に紙を置き、絵の具をつけたビー玉を転がしたり、細いスポンジでできた掃除用ブラシをスタンプ代わりにして叩くように着色したりと、偶然にできる模様づくりを楽しんだ。障子紙は水と食紅を使った染め紙で着色をする。均一に色が付けられるよう障子紙は蛇腹折りにすることをはじめに指導し、自由に紙を染めた。染液は共同で使うように準備したので、染液の色が濁ってしまわないよう、黄色を使いたいときは、黄色を最初に使うよう指導した。障子紙を蛇腹折りでなく、くしゃくしゃに丸めて着色すると、不規則なにじみを表現することができた。紙を折って切って作る「切り紙」は花の表現に向いており、植物を制作する学生が多く見られた。また、色紙や画用紙を切って貼って1枚の絵を作る平面作品では、例えば「入園式」をイメージした桜と制服と通園バッグの絵、「母の日」をイメージしたお母さんとカーネーションの絵、「十五夜」をイメージした月とススキとお月見団子の絵など、複数のモチーフを一つの作品の中に収めた

い表現に使われていた。平面作品は、吊るす時にちぎれたり破れたりしないように、最後にラミネート加工をして強度を上げた。



図1～2 モダンテクニックで模様付けする様子



図3 着色に使用したブラシ 図4 完成した模様紙

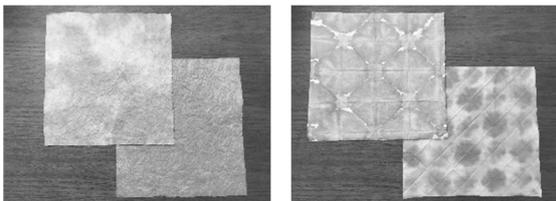


図5～6 染め紙①②

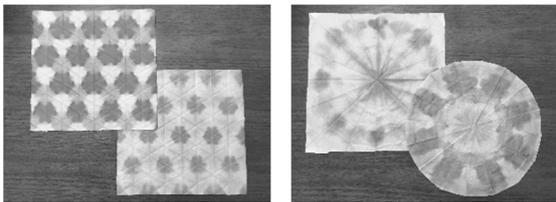


図7～8 染め紙③④

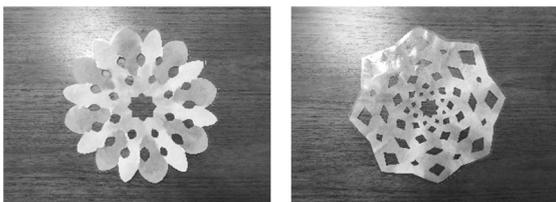


図9～10 染め紙を切り紙にしたところ

2-3. 立体作品の制作

折り紙や切り紙の平面作品では本やインターネットで作り方を調べて順調に制作できていた学生でも、立体的に制作することに苦戦していた。立体的な作品を作るためには、正面だけでなく前後左右のデザインを考えなければならず、素材の加工の方法や部品同士の接着の方法など、平面作品制作のときよりも柔軟なアイデアや高度な技術を要する。学生全体の傾向としては、例えばスイカやブドウ、柚子など、丸みのある食べ物や立体で表現しやすかったようだ。紙コップや

紙皿を手にとって、そこから何が作れるか考え、モチーフを変更する学生も現れた。

2-4. 作品を吊るす

完成した個々のモチーフは、作品上部に目打ちで穴を開け、好きな色の毛糸やテグスを結び付けたら、釣り合うバランスを保つように針金につないでいく。針金はアルミ製や鉄製、ピアノ線など材質や太さは様々である。同じ直径1mmの針金でも、アルミ製は幼児の力でも曲げられるほどやわらかくて使いやすいが、作品を吊るした重みで曲ってしまう場合があるため、今回の実践では鉄製1mmの針金を使用した。針金は、吊るしたときに作品同士がぶつからないよう10cm～15cmに切り、糸を結び付けるためにラジオペンチで針金の両端を小さな輪ができるように曲げる。女子学生の数名が針金をペンチで切るだけでも苦勞している様子が見られたが、硬い針金を使ったことで安定した軸を作ることができた。モチーフ同士が釣り合うことが原則だが、当然、全員が全く同じ重さのモチーフを制作できた訳ではない。重さの異なるモチーフを釣り合わせるためには、天秤構造を支える中心の糸の場所をずらす必要があることを伝え、学生たちは友人と協力しながら各モチーフの位置や糸の場所を調整した。

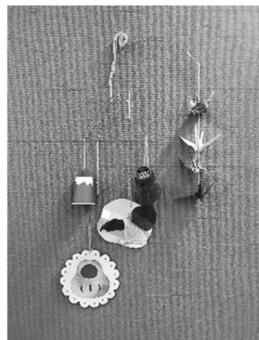


図11 1月の作品



図12 2月の作品



図13 3月の作品

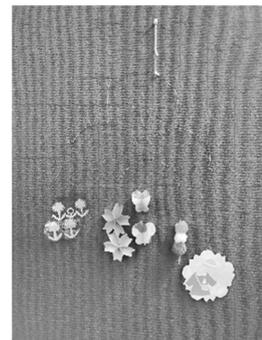


図14 4月の作品



図15 5月の作品

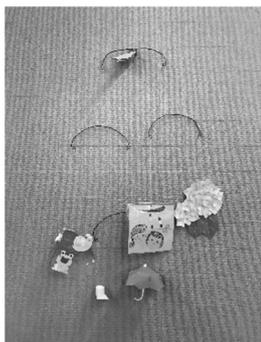


図16 6月の作品



図17 7月の作品



図18 8月の作品

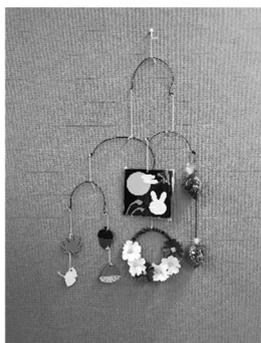


図19 9月の作品



図20 10月の作品

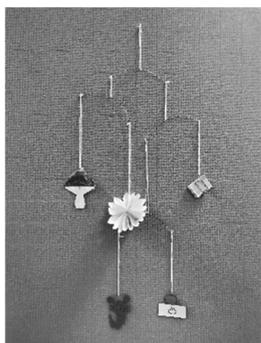


図21 11月の作品

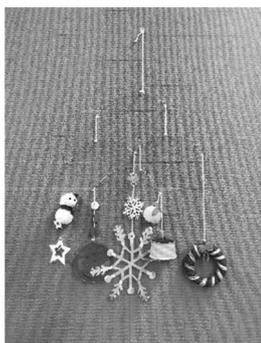


図22 12月の作品

2-5. 学生の感想

授業後の感想カードより、学生の感想を抜粋する。

- ・吊るすのが難しかった。立体の作品を大きく作り過ぎたせ

いで、釣り合いのバランスが悪くなってしまった。

- ・ひもを吊り下げるときのバランスが難しく、長さや配置に困った。
- ・自分の生まれ月にある行事やその時期の植物などをよく知らなかったので、この制作がいきつきかけになった。
- ・立体の作品をどこから見てもきれいに仕上げることに苦労した。
- ・染め紙の色が思う色にならなかったため、次はもっと濃い色で作りたい。
- ・モビールを飾ったら、その部屋が明るくなると思った。他の月でもまたモビールを作りたい。

学生たちはどの工程でもよく考え、楽しんで取り組んでいるように見えた。はさみの練習から始まった授業の最終課題としてふさわしく、丁寧にかわいらしく作られていた。

3. まとめ

保育現場でモビールを活用する場合、(1)教室掲示の一つとして保育者がモビールを制作する場合と、(2)幼児が制作した作品をモビールにする場合の2つが考えられる。(2)の場合は更に、(2)-A 幼児一人が一つのモビールを制作する場合と、(2)-B 幼児が制作した作品を掲示する方法としてモビールを活用する場合に分けられる。(2)-A の場合、クラスの人数全員分のモビール作品を教室内に掲示するためには、圧迫感にならないモチーフの大きさや吊るす糸の長さに配慮する必要がある。(2)-B の場合では、一つのモビールに複数人分の作品をまとめることができるため、場所を取らずに掲示をすることができる。

学生たち30名分の作品を見ていると、一つずつのモチーフはよくできているが、吊るすとモチーフ同士がぶつかったり、片側のモチーフが重すぎて針金の中心に結んだ糸がずれてしまったりする作品が見られた。吊るす工程において、仕組みの解説や試行錯誤する時間を多く取るべきだったように感じる。また、仕組みの解説をモチーフ制作の前におけば、モチーフの大きさや重さに配慮した作品が作れたのかもかもしれない。

紙は身近な素材であり、軽く、僅かな風に揺れてゆるやかに動くので、モビールに適した素材である。学生の感想にもあったように、飾るだけで部屋が明るくなり、幼児の視覚的な刺激にもなる。季節や年中行事のモビールは保育の現場において、価値のある教材になり得るのではないかと考える。

参考文献

- 1 村田透 2016「幼児期の子どもの造形表現行為と保育の場に関する研究」『美術教育学研究』第48号
- 2 寺沼麻美 村上千歳 2014「ゆらゆらゆれる北政風手作りのモビール」ネコ・パブリッシング
- 3 イェンス・ファンダー・ニルセン 2008「北政の切り紙インテリア・モビール」池田書店
- 4 山下浩平 2008「mountain mountain の切り紙・モビール BOOK」マイナビ

5 Jens Funder-Nielsen「北欧の切り紙-デンマークのかわいいモバイル」

池田書店

#